

## 作文（中学生）の部 国土交通事務次官賞（優秀賞）

### 「 知ることの大切さ 」

福井県 福井市足羽第一中学校 1年 野村 光希<sup>のむら みつき</sup>

令和3年7月3日。静岡県熱海市で土砂災害が起きました。僕はその光景をテレビで見っていました。大きな家が、車が、道路が、為す術もなく、あっという間に土砂にのみ込まれていきました。僕は、現実の出来事なのか、それとも避難訓練の為に作られた映像なのかわからなくなるほど衝撃をうけていました。しかし、それが現実だということは被災された方の表情ですぐにわかりました。大変なことになっていると思いました。と同時に、同じような災害が身近に起こった時、自分はどのようにするのだろうか。それを想像するだけで恐ろしくなりました。そこにいるたくさんの人の生活。そして僕の生活。命を守る為には、今のように無知ではいけない。僕はどう災害に備えるべきなのか調べて考えてみました。

日本は土砂災害の多い国です。国土の約6割が山地で平地が少ない為、山の斜面や谷の出口など、土砂災害の起こりやすい場所にたくさんの人が住んでいます。このことが土砂災害の原因の一つでもあります。また、地形や地質、気象にも原因があります。日本は雨が多く、梅雨や台風、秋雨などにまとまって降ります。この為、土砂災害もこの季節に起きやすいのです。この事をふまえた上で、土砂災害から命を守る備えを3つ考えました。

1つ目は、土砂災害警戒区域を調べておく事です。自分の身近な場所を調べておく事で大雨などが降った時、その場所を避けて避難する事ができます。ただし、土砂災害は土砂災害警戒区域以外でも発生することがあるので十分な注意は常に必要です。

僕の住んでいる地域も文殊山という素晴らしい山のふもとに家が建ち並んでいます。幼い頃から毎年登った愛着のある山です。調べると、特別警戒区域と警戒区域が所々にありました。雨が降ると水没してしまう道路もたくさんあります。そこで、地域のお年寄りに危ない場所を聞いてみると、

「あの場所はいつも雨が降ると水没する場所なんだよ。あの川は小さい川でも増水しやすいんだよ」など、色々教えてくれました。僕は少しうれしい気持ちになりました。そこに長年住んでいる人の情報と新しい情報が重なる事は、より正確なデータになると思ったからです。

2つ目は、避難場所を家族と一緒に決めておき共有する事です。災害時、必ず家族と一緒にいるとは限らないからです。離れている場所で被災したとしても必ず会えるように、日頃から避難場所と、そこへ行くための安全な道を話し合っておくべきだと思います。

僕の家では避難場所は小学校か、学校隣の公民館。これは小さい頃から決めて話し合っていました。学校にいるときに何かあった時は必ず妹の事を守る。そして先生の指示をきちんと聞く。時間がかかっても必ず学校に迎えに行くから待っている事。これが僕と家族の約束でした。

3つ目は、非常持ち出し用品を用意しておく事です。いざ避難しようと思った時に大事なものがまとまっていないと持ち出すのに時間がかかって危険におちいりやすくなってしまいますからです。災害時に適切な判断はなかなかできません。非常食、衣類、安全具、緊急薬品、貴重品などを前もって用意する。それがあつ場所を把握しておく。それだけで避難時のスピードは変わってくると思います。

僕の家で非常持ち出し用品はまとまっているかどうか母に聞いてみました。母屋には用意されていましたが僕の住む離れには残念ですがまだ用意されていませんでした。実際、母屋の非常用袋も、持ち出したことはこれまでに一度もなかったようですが、祖母は時々中身を点検して非常時に備えています。これを機に何が必要か、家族で話し合っておくことになりました。

「みんなで考える機会を作ってくれてありがとう。」

と母に言われて、少し照れくさかったのですが嬉しい気持ちになりました。

僕が考えた土砂災害の3つの備えは、当たり前な事ばかりかもしれませんが、僕は知らない事ばかりでした。ずっと親任せ、他人任せで、どうすればいいかなんて考えた事がなかったからです。しかし中学生になった今、誰かに任せっきりというわけにはいきません。『知る』ということはとても大事な事だと思いました。

調べれば調べるほど僕の知識になり、自分が行動するための小さな自信となりました。今はまだ小さな自信ですが、もっともっと色々なことを知って大きな自信になった時、まず自分が実践し、僕の友人や大事な人に教えてあげられるようになりたいと思います。災害が発生する前に、みんなに危険な場所を伝え、みんなが助かる行動について伝えていきたいです。